

自他を尊重し、認め合い、支え合うことのできる生徒の育成を目指して

大網白里市立増穂中学校

1 はじめに

本校は、九十九里浜白里海岸に面した緑豊かな大網白里市のほぼ中央にある、全校生徒約250名の学校である。平成29年度、30年度の2年間、文部科学省指定の人権教育研究推進校となり、様々な取組を行った。

取組を行う際に大切にすることは、次の2点である。第一に今までの本校の実践を基盤にして取り組むこと、第二に研究指定校の期間だけでなくその後も継続して取り組めるものであること、である。

2 研究概要と全体計画

本校では「ともに学び、ともに支え、よりよく生きる生徒の育成」を教育目標とし、明るいあいさつと笑顔のあふれる学校を目指し教育活動に取り組んでいる。多くの生徒は、明るく素直で、落ち着いた学校生活を送っている。この度の指定を受け、教育相談や学校評価アンケート等の実態から、自分の人権だけでなく友達の人権についても正しく理解し、思いやりのある態度を身に付け、具体的な行動に表せるように、研究テーマを「自他を尊重し、認め合い、支え合うことのできる生徒の育成」と設定した。

研究の全体計画は以下のとおりである。

- 教職員の共通実践項目の自己評価
- hyper-QU（学級診断アセスメント）の分析
- 道徳の共通実践

○各教科における、個を大切にする指導の充実

○人権講演会の開催

○生徒会活動

○研究紀要の作成

3 研究の実践

(1) 共通実践項目

平成29年度に本校独自の「人権が尊重された指導点検票」を作成し、11月から約1年間の共通実践を行った。点検票に示された各項目について教職員が主体的かつ日常的に意識できるように、毎週月曜日に自己評価を行って各学年の人権担当者に提出し、全校の人権担当者が全体を把握した。平成30年度はこれを授業展開に生かすため、学習指導案に人権配慮事項を明記していく取組を行った。

この取組は、全職員の意識付けを最も重要な目的と考えて行った。そのため「具体的な行動として実践できること」「毎週行えるよう、あまり時間がかからないようにすること」を念頭に置いて作成し、実践した。

(2) hyper-QU 検査の活用

本校では例年、6月末と11月末の2回検査を実施し、それぞれ約1か月後に結果を得ている。hyper-QU 検査では、学級内の満足感や意欲、学級集団の状態等多くの面を把握することができるが、今回は「居心地のよい学級にするためのアンケート」を基に、生徒個々を分析し、支援を必要とする生徒を抽出し、

全職員で声かけを行うこととした。

本校では毎年この検査を行ってきたが、対人関係における生徒や学級集団のソーシャルスキルの状態を把握し学級経営に生かしていくことが中心であり、個々に対する支援としては利用していなかった。しかし今回の研究で、生徒個人への支援に対しても大変有効に活用できることを明らかにすることができた。また、短期間の実践だけでも、個々の状況に改善が見られることが明らかとなった。

(3)増穂中学校

「思いやり宣言」

本校では、3年前に「増穂中学校『思いやり宣言』(図1) 5箇条」とシンボルマーク(図2)を作成し、全校生徒で唱和する活動を行ってきた。そして、その活動を更に広げる取組を、生徒会を中心に行った。

主な取組としては、継続的な活動、生徒会を中心とした学級活動(2時間展開)、全校掲示物の作成、の三点である。

生徒会を中心とした学級活動では、ワークシートと話し合い活動を通して「思いやり宣言」の振り返りを行い、それを具体的行動に移していくにはどうすれば

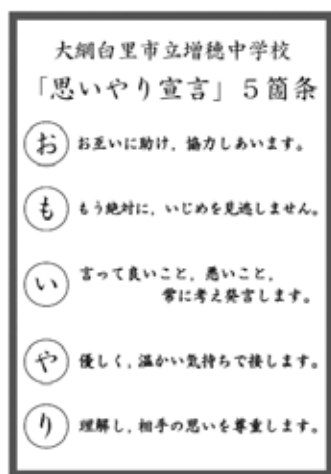


図1 「思いやり宣言」



図2 シンボルマーク



図3 思いやり宣言の木

よいか考えた。2回の学級活動から出た意見を基に生徒会本部役員が話し合いを重ねた結果、「思いやり宣言の木」(図3)という掲示物を全校で作成した。文章に込められた思いを継承するとともに、実感を伴った活用をしていくことを考えさせる、大変良い機会となった。

4 研究の成果と課題

2年間の研究では、研究推進会議を県教育庁東上総教育事務所指導主事及び大網白里市人権擁護委員の方々を招聘し、多くの助言をいただきながら進めた。

生徒を対象とした第1回調査(平成30年5月実施)では、人権に対する学習経験について具体的に回答できた生徒は、全校で53.4%であった。第2回調査(12月実施)では、人権に対する学習経験について、多くの生徒が「思いやり宣言」への取組や人権講演会など、具体的に意識できたことを書くことができた。具体的に回答できた生徒が91%と、大幅に増加した。

一方、職員を対象とした調査では、「研究実践を通して人権に対する意識を高めることができた。」という肯定的意見がほとんどであった。さらに、今後も継続していく必要性を感じている職員が多くいた。また、「人権教育に取り組むことで、授業改善を行うこともできた。」と、実感している者も多くいた。

5 おわりに

本校では、かねてより学校評価アンケートで「自分や他の人を大切にし、大切にされている」という実感が低いことが課題となっていた。しかし、人権教育を推進することで、その点を改善することができた。今回の取組を年間指導計画の中に位置付け、今後も継続していくことが最も重要であると考えている。